



申
2
号

「安全第一主義」「現場第一主義」の企業風土の再構築と 法令を遵守したJR東日本の健全な経営を求める申し入れ

6月14日 第1回団体交渉を行う! ~その2~

〈1項〉 コロナ禍という国難とも言える事態を乗り越え、JR東日本グループが将来にわたって事業を継続していくために「安全第一主義」「現場第一主義」の企業風土を再構築し、法令を遵守した健全な経営を行っていくこと。

(回答) 新たな次の成長戦略を描き実現していくために、健全な危機感を持ち、「変革2027」の取組みのレベルとスピードを上げていくとともに、生産性を高め、収益力を向上させるため、引き続き事業全般における構造改革を推し進めていく考えである。

会社は「個」に重点を置き過ぎている! 「組織」としての行動に力を置き、 考えて行動できる人、判断できる人づくりに主眼をおくべきだ!

組合: 系統を問わず、事故の連鎖が止まらない危機的状況であることを認識し、現場力を付けるべきだ。

会社: ハード面での投資はしてある。ヒューマンエラー、知識不足、過去の事象に基づく議論、取り扱いの成り立ちなどを教育し、知らない若手に世代から伝えたい。

組合: ルールの成り立ちなどを伝えているが、教育がマニュアル化している。考えと行動が一致しない現実。この乖離に問題があり、取り扱いを知っていても行動を起こしてしまうことの原因が課題であることを認識するべきだ。

全ての人の“いのち”、“健康”を守り、安全に安心して働ける環境をつくり出そう!

組合: 新型コロナウイルスワクチンの職域接種について優先順位やスケジュール感などについても具体的に示すべきだ。

会社: 6月21日から東京と仙台において実施し、地方の感染状況を見据えながら、支社や現場と調整し、順次拡大を目指していく。安全・安定輸送をしっかりと確保していく観点で、体制を検討し、順番を決め、進めている。

組合: 家族とともに鉄道輸送を守るために努力してきた。ワクチン接種は家族にも対象を広げるべきだ。また、グループ会社はどこまで対象となるのか。

会社: 国も日々状況が変わっており、できる対応をしていく。まずは社員を優先に行う。

一切の不当労働行為を許さない! 席上、支配・介入であることを **通告!**

組合: 経営の意志は現場に現れるが、現場では、試験における利益誘導や不利益扱い、パワハラ、そして未だに脱退策動といった不当労働行為が行われている。また、新入社員研修において、国鉄は労働組合によって潰されたかのような映像資料および会社幹部による講演が行われ、新入社員は「労働組合は、会社にとって悪い人たち」と受け止めている。一部だけを伝えることなく、全てを説明するべきだ。あった事実を正しく伝えることも会社の責務である。

会社: 特に認識しておらず、会社規程を守って経営していく。国鉄改革前夜のことは、国鉄承継法人として、新入社員に事実を知ってもらうために伝えている。長期債務やモータリゼーション、労働組合の話も一部出ている。

組合: 研修の場で、労働組合に加入しづらいようなことが行われている。輸送サービス労組の正当な活動に対する処分もある。労働組合の加入を侵害する行為は、憲法28条で保障されている団結権の侵害であり、支配・介入であることを通告する。労働基本権に基づき、私たちの労働組合活動を保障することを強く求める。

会社: 会社は、就業規則に基づき職場運営を行っている。また会社は、正当な労働組合活動に支配・介入するつもりはない。職場運営を行う上で就業規則というルールがあり、それを逸脱した場合は処分もあり得る。

組合掲示板は「みんなが見える箇所」へ設置することを **認識一致!**

組合: 協約に基づき、未設置箇所への掲示板の設置を「組合員に不利益(見づらい箇所)」にならないように速やかに行うこと。

会社: 一般的にもみんなが見える箇所が望ましいと考えている。

法令を遵守したJR東日本・グループ会社の健全な経営を目指そう!

次回、第2項より